

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 華陽フロンティア高等学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和4年6月27日(月) 15:30~16:45
- 3 開催場所 華陽フロンティア高等学校 南校舎 201教室
- 4 参加者

会長	安田 和夫	岐阜聖徳学園大学教育学部 教授
副会長	廣瀬 富久夫	本校同窓会 会長
委員	臼井 悟	鶴自治会連合会 会長
	田内 恵美	本校校友会 会長
	前田 貴子	地域創生キャリアプランナー
	南谷 東子	人権擁護委員
	森 芳	本校PTA会長
	山口 永真	本校卒業生
学校側	鵜飼 陽一郎	校長
	桑原 聡	副校長
	松野 聡美	事務部長
	中原 泰男	教頭(定時制課程)
	笠井 寛	教頭(通信制課程)

5 会議の概要(協議事項)

○ 本年度の教育活動について

- (1) コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)について
- (2) 令和4年度 岐阜県立華陽フロンティア高等学校について
- (3) スクール・ポリシーについて
- (4) 本校の特色ある取組について
- (5) 令和4年度 教育指導の重点及び学校経営計画について

意見1: 不登校等の辛い経験や様々な特性を持つ一人一人の生徒に対して、教員が「カウンセリングマインド」に基づく積極的傾聴を心掛け、また、生徒に積極的に声を掛けるといふ、生徒に寄り添う姿勢が素晴らしい。そのような教員の姿勢が、生徒達に安心感を与えている。多くの保護者が、学校生活を楽しむようになった子どもの姿を見て喜んでいる。

意見2: 様々なアンケート等を活用し、生徒たちの困り感を把握する工夫がされていてよい。

意見3: 「演劇ワークショップ」やユニバーサルデザインを意識した授業等、生徒の特性に配慮した教育が行われている。また、半期ごとの単位認定により短いスパンで達成感を味わえるよう工夫されていてよい。

意見4：通信制の「学校らしい学校」というキャッチフレーズが大変素敵で共感できる。通信制高校が増えている現在だからこそ、自信をもってこの方向で進めてほしい。

意見5：不登校等の経験がある生徒や家庭環境に恵まれない生徒にとって、高校の学びだけで社会に出ていくのは難しい。卒業後の可能性を広げるためにも、外部人材による支援をより一層充実させるとよい。

意見6：ゆっくりと無理せずに、自然に「わかる喜び」を感じることができるように授業が工夫されている。ICT機器も積極的に活用されていてよい。ただ、ICT機器の活用が、教員の新たな負担になっていないかが心配である。

意見7：全日制課程や定時制課程に比べて、通信制課程のICT機器整備は十分とは言い難いと感じた。今後、様々な場を通じて、通信制課程のICT環境整備について働きかけていきたい。

意見8：教員の日々の取組には感謝している。教員数が不足していないか心配だ。PTAや同窓会、校友会も学校との連携を通じて、今まで以上に協力していきたい。

6 会議のまとめ

- ・本年度の学校運営基本方針について、全委員の理解と承認が得られた。
- ・本校の教育活動に寄せる期待や要望を多く聴くことができる貴重な機会となった。
- ・次回は、「生徒及び保護者によるアンケート」結果等を踏まえ、本校教育活動に対する意見や提言を集約する予定である。